

## 令和3年度 第6回松本市地域づくり市民委員会 会議要旨

開催日時 令和3年7月19日（月曜日） 午後1時30分から午後3時00分まで

開催場所 大手公民館 2階大会議室

出席者（敬称略）

委員 降旗都子（委員長）、丸山宗志（副委員長）、内山博行、倉田美智子、林下すず子、山下京子、赤羽 勝、鳥羽弘幸、倉澤 聡、窪田隆彦、相原功子、小林 修、松山絃子

（欠席：濱由佳子、臼井和夫、久保 愛）

事務局 地域づくり課 課長 廣田圭男

市民活動・ユースサポート担当係長 胡桃澤伸一

地域づくり担当係長 床尾拓哉、主査 内田裕美

### 1 開会

（降旗委員長）

### 2 あいさつ

（降旗委員長）

- ・ 7月17日に、2月から延期されていた公民館研究集会の分科会を第三地区公民館で開催した。活発に意見が出て、とても良いつながりができた分科会だった。

### 3 新委員紹介

（事務局）

- ・ 松本市健康づくり推進員連合会の役員交代に伴い、前任の大門千恵美委員に代わり、林下すず子委員が新たに就任

### 4 第5回会議録の確認について

（降旗委員長）

- ・ 事前に修正等の申し出なし。このまま確定としたい。

<意見等>

- ・ なし

→確定版を市公式ホームページに掲載

### 5 会議事項

#### (1) 意見交換（グループワーク）

<グループワーク>

※ ファシリテーター：丸山副委員長

※ 3グループに分かれて、「つながり」の次の2つの段階について意見交換を行う。

#### A 「つながり」のきっかけ

人と人との顔を合わせ、知り合いになるきっかけはどのようなものか。

## B 「つながり」を深める

知り合いになったあと、協働していく中で生まれてくるもの(喜び、楽しさ等)、つながりを深めていくものは何か。

※ その後、グループワークの結果について各グループから発表

<意見等>

- ・ 別紙「グループワークのまとめ」のとおり

(丸山副委員長)

- ・ 地域の活動は、強制力を持っている。それをいかに能動的、自発的なものにしていくかが重要
- ・ 目的を共有することで、充実感や“やりがい”に変わっていく。
- ・ 地域の祭りにしても、国や県から文化財に指定されるなど、外部から価値づけをされることも多いが、地域が価値をきちんと理解しながらやっていけるかどうか重要であり、いまの地域社会、地方に求められていること
- ・ 喜びや楽しさも価値。価値を自分たちが生み出せるような「つながり」が、今の地域に必要なのではないか。

(降旗委員長)

- ・ グループ発表を踏まえ、意見等はあるか。

<意見等>

(小林委員)

- ・ 地域包括ケアシステムが重要だと以前から言われているが、具体化していない。
- ・ 高齢化社会における地域づくりということについて語り合い、「こんな風な地域になったらいいよね」と考えながら、しっかりとしたワークショップで議論が行えると、みんなの気持ち、要望、夢、自分たちでできることが出てきて連帯感が沸く。「みんなで作っていこう」となるのではないか。

(倉澤委員)

- ・ 強制を任意にすると、出てこなくなるということもある。
- ・ 丸山副委員長の話にあった、強制というのをどう能動化していくかという点が、かなり重要であると感じている。

## (3) 今後の進め方について

(降旗委員長)

- ・ 話し合いの内容を踏まえながら、7月末までにレポート提出をお願いします。
- ・ 提出レポートを基に正副委員長、事務局及びグループリーダーの倉澤委員、鳥羽委員とともに提言書の骨子案をまとめたい。
- ・ 骨子案の作成について、正副委員長および先ほどのメンバーに一任でよいか。

(意見・質問等)

意見なし

→骨子案作成については、正副委員長ほかに一任

6 今後のスケジュールについて

(事務局)

※ 資料に基づき説明

<質疑等>

・ なし

(以上)

## 第5期地域づくり市民委員会（第6回）グループワークのまとめ

## 1 「つながり」のきっかけとなる機会について

「暮らし」を軸としたきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 普段の暮らしからゴミ当番のような強制的なものまで、「暮らし」にかかわるきっかけ。</li> <li>• 新たに町会に入ったときに顔見知りくらいのつながりがある。</li> </ul>
「仕事」を軸としたきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 行政の委員会→深いつながりにはなりにくい。</li> <li>• 地区の役員。順番で回ってくるがやってみると地域の人とのつながりが生まれる→受動的だがきっかけになる。</li> </ul>
楽しさ・趣味を通じたきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地縁だった地域のつながりに、新たに楽しみ・趣味のような目的のつながりが地域にあれば良いきっかけになる。</li> <li>• 趣味のサークル等は人の固定化が問題</li> </ul>
DX	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デジタル機器など慣れ親しんでいない高齢者は押しつけだと嫌になるが、子どもに教わるなどすると、使い方を覚えたり学んだりでき、新たなつながりができる。</li> <li>• 子どもも多世代とのつながりができる。</li> </ul>
子ども	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもを通じてのPTA活動は親同士がつながるきっかけ</li> <li>• 楽しい地区行事を通して子どもと地域の人とがつながる。</li> <li>• 学校や児童センターから子どもたちが地域に出るような取組みがあると良い→子どもたちが地域を知るきっかけになる。</li> </ul>
地域を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもと大人と地域を結びつけるコミュニティースクールは大事</li> <li>• 学校で地域のことを学ぶと、子どもが地域を知る。子どもが知ると親も自然と学ぶ。</li> <li>• 学校の先生だけでなく仲介した公民館等のコーディネートがあってつながる機会があった。地域づくりについて行政職の学習も必要なのでは。</li> </ul>
町内公民館の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域行事に参加するには遠すぎて参加しない人もいる。</li> <li>• 町内公民館で行事をすることはきっかけづくりになる。</li> </ul>

## 2 「つながり」を深める(強くする)機会について

つながりを深くする	<ul style="list-style-type: none"> <li>• きっかけになる機会とつながりを強化する機会が繰り返し行われるような企画。イベントやワークショップ。</li> <li>• つながりを深める企画に参加することは自己成長につながる。</li> <li>• つながりには共感が必要</li> <li>• 川の一斉清掃に出ることが目的化している＝苦痛 →でも地区の子供たちが遊べる川にしようなど目的が共有されていると、参加者の充実感ややりがい各段違う。</li> </ul>
-----------	---

子どもとのつながり	・ 地域応援団のようなもので、地域と子どもの結びつきを強める。子どもが地域に関わると、大人になっても地域に関わり支えてくれる人が増えるのではないか。
-----------	--

#### 4 その他の意見等

- ・ 自宅から出られないなど、つながる機会すら奪われている弱い立場の方々のつながりも考えないといけない。
- ・ 地域づくりはすぐできるものではない。10年20年先を考えて取り組んでいくことが大切なのではと感じる。